

つくば大学周辺地域における神社の分布とその特徴に関する調査

曲宇航(地球科学専攻)

1. 目的:本調査では、筑波大学周辺地域の 25 個の神社を調査対象として、各神社の空間的な分布特徴とその要因を検討するために、筑波大学周辺地域における神社の分布に関する調査を行う。

2. 対象地域:筑波大学周辺地域に分布している 25 個の神社を調査対象として調査を行う。

3. 研究手法:今回の調査には GPS と arcgis ios を用いて、各神社の位置情報を収集し、フィールドワークにより各神社の鳥居と歩道の材質や周辺土地利用などのデータを収集し、ノートに記録した。そして文献資料から各神社の社格、所属、主な祭神などの情報を入手した。そしてデータを図表化することにより、分析を行う。

4. 結果・考察:調査の結果により、25 箇所の神社の中に、石製と木製鳥居の数はそれぞれ 122 個と 3 個である。歩道の材質には石、石板、土三種類である。そして土地利用型からみると今回の調査対象である 25 個の神社周辺の土地分布状況には主に住宅地(一戸建て)、林地、農地、空き地四種類である。祭神については作成した図表(各神社祭神の統計図)により素盞鳴命(スサノハミコト)、武甕槌命(タケミカヅチミコト)と火之迦具土神(ヒノカグツチミコト)を主な祭神として祭られる神社の数が一番多くのである。

建築材質から見ると石製鳥居と歩道の数が圧倒的に多い、それは石製物が硬くて壊れにくい性質とは関係があると推定する。そして神社周辺の土地利用型からみると住宅地(一戸建て)の出現回数が一番多い。土地利用図と地形図(図 1、図 2)を参照すると、今回調査した 25 箇所の神社はほぼ田舎の住宅地周辺に分布していると推定できる。そして大部的な神社には山林の近くに分布するという傾向がある。それは神社の機能と建築者の対地震策や水防上の考えと関係があると推定する。今回調査した 25 個の神社のなかに同名神社(同じ神社系統に属する神社)が何回出現する。それぞれに愛宕神社(4 個)、八坂神社(5 個)、稲荷神社(2 個)と鹿島神社(4 個)である。各神社の祭神相関の資料と周辺土地利用型(図 2)相関のデータを参照すると 25 個神社の中には愛宕神社と稲荷神社は全部農地の周辺に分布している。それ

は神社の祭神(火之迦具土神と稲荷神)の神の職(火之迦具土神は火と耕作などと関連する、稲荷神は食物と農業などと関連する)と繋がっていると推定する。八坂神社と鹿島神社は全部住宅地の周辺に分布している。それは神社が祭神(素盞鳴命と武甕槌命)を守り神として祭られることと関連する。



図 1. 調査地域における神社の分布—土地利用型



図2. 調査地域における神社の分布—地形